

わが国で市販される 2 種類の牛伝染性鼻気管炎
ワクチン株と野外株を識別するマルチプレックス
PCR-RFLP 法の構築

白 鳥 孝 佳[†]

山形県中央家畜保健衛生所（〒 990-2161 山形市漆山 736）

（2022 年 3 月 22 日受付・2023 年 3 月 14 日受理・2023 年 6 月 14 日公開）



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/6/76_e135/_article/-char/ja

要 約

牛ヘルペスウイルス 1 型 (BoHV-1) は牛伝染性鼻気管炎 (IBR) の病原体であり, 国内では注射及び経鼻の 2 種類の生ワクチンが用いられている. 既報において注射ワクチン株の 758-43 株に UL49 遺伝子の一部欠損, 経鼻ワクチン株の RLB106 株に UL40 遺伝子上の一塩基変異が報告されており, この 2 種類のワクチン株と野外株を一度に識別する方法として, これらの変異部位を含む領域を増幅し制限酵素 *Sty* I で切断を行うマルチプレックス PCR-RFLP 法を構築した. 本法は既報の識別 PCR 法が対応していない RLB106 株と共に 758-43 株も同時に識別可能であった. さらに他の BoHV への反応は認められず, 識別に DNA シーケンスを必要としない本法は BoHV-1 株識別及び IBR 診断に有用と考えられた. —キーワード: 牛ヘルペスウイルス 1 型 (BoHV-1), 識別, 注射ワクチン, 経鼻ワクチン, マルチプレックス PCR-RFLP 法.

-----日獣会誌 76, e135～e140 (2023)